

『日本国際バカロレア教育研究 第2巻』掲載の目次に誤りと寄稿論文要旨の記載漏れがありましたので、お詫び申し上げます。正しくは、以下の通りです。

1. 目次の訂正について

日本の国際バカロレアの推進における政策的動向の一考察..... 勝俣 文子...20

2. 要旨の未掲載について

Cultural Adaptation of the International Baccalaureate DP Subject TOK in Japan Douglas TRELFA

の日本語要旨が記載されていませんでした。以下、日本語要旨です。

+++++

〈要旨〉

日本における TOK 「知の理論」の文化適応

ダグラス・トレルファ

(西フロリダ大学)

本論文は国際的な視野を育むカリキュラムである国際バカロレア (IB) のディプロマプログラム (DP) のコア科目、TOK (Theory of knowledge) 「知の理論」に着目し、日本の導入に伴う留意点や問題点を西洋と東洋の比較文化の観点から考察する。TOK は欧米の哲学に基づいた分野である故、日本人が教える場合は文化の違いを考慮した上で、文化の適応や指導の工夫が必要である。本論文では、著者の TOK 指導経験や異文化研究を元に三つの事例を取り上げる。

第一は、現実の社会構築とハイパーリアルである。ハイパーリアルを題材に作られたハリウッド映画の「マトリックス」を日本の教室で紹介する際に生じる文化的問題点と可能性を解説し、非現実的な側面を持つハイパーリアルの典型的な事例と挙げられるディズニーランドなどのテーマパークやユートピアヴィレッジを紹介する。そして、サイバーワールド、ゲーム、テクノロジーによる現実社会での人間同士のコミュニケーション離れを促す商品についての危険性を指摘しながら TOK の役割を分析する。他に、日本の AKB48 や原宿、アメリカの Halo など取り上げる。

第二は、経験主義と信仰の自由の対立である。TOK は、欧米では宗教と科学の葛藤から影響を受けているが、日本ではそのような葛藤が希薄である。この文化的背景の相違から生じる学生指導への留意点を考察する。例えば、アメリカの原理主義に見られる進化論や、科学、地球温暖化への不信は日本ではあまり見られない。このことは、TOK の必要性和題材の相違に及ぶ指摘ができるだろう。仏教とキリスト教の世界観、その影響にも触れる。

第三は、文化と認知の関係である。認知論の研究では、東洋人と西洋人の思想や認知が文化によって違うということから、その研究内容こそが TOK の教材になると考える。また、TOK で取り入れる社会心理学の研究も紹介する。

以上より、今後、日本に TOK が導入する際、上記を踏まえることにより東洋の思想や文化を取り入れた日本の TOK の融合的発展が期待できると考えられる。